

和歌山エリア 湯浅コース

古道と醤油の町・湯浅を歩く



マークの仕方 歩 平地 登りゆるやかな上り・下り 急 急な上り・下り





湯浅の町並み

麴の香りに誘われて、湯浅の歴史に思いを馳せる日本遺産の町

熊野古道沿いの宿場町として歴史が築かれてきた紀州の港町。和歌山の温暖な気候と穏やかな風土に培われた醤油やみかんが代表的な特産物。特に日本遺産である醤油醸造は、湯浅醤油のブランドで名高く、趣のある古い町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

おすすめスポットガイド SPOT GUIDE



熊野へ続く道しるべ

◎立石道標 たていしどうひょう

湯浅町内を南北に貫く熊野古道。その中間辺りにある立石は、天保9年(1838)に建てられた往時を偲ぶ道しるべ。北面には「すぐ熊野道」、東面には「きみでたら」、南面に「いせかうや右」の文字が刻まれ、ここが紀三井寺・熊野・伊勢・高野への参詣道であったことを示している。



湯浅湾を見下ろす由緒ある古刹

◎施無畏寺 せむいじ

月の歌人とも称せられる京都栲尾高山寺の名僧、明恵(みょうえ)上人が23歳の時から白上山上で修行したことを記念し、上人のいとこである地頭・藤原(森)景基が開基。明恵上人は開眼供養をした翌年、寛喜4年(1232)に亡くなった。栖霞海岸を望む参道は桜の名所。

🕒 日中であれば可能 🆓 無料 📞 0737(62)2353



150年を越える歴史を誇る

◎角長 かどちょう

醤油発祥の地である湯浅の中でもここ角長は、昔ながらの伝統的な技法で醸す「湯浅たまり」を今に伝えている数少ない老舗。天保12年(1841)の創業で、明治初期の湯浅豪商園という図版に描かれている店や蔵の外観がそのままも残っている。また、醤油資料館では醤油作りの道具が展示され、見学も可。また、

🕒 9時～17時 ※資料館は12時～13時まで休館、受付は閉館の30分前まで。要予約 🆓 無料 📞 不定休 📞 0737(62)2035

湯浅名物 コレが人気のおみやげ

◎角長 かどちょう 湯浅たまり
原料の大豆の処理から出荷するまでに約1年半という手間と時間をかけて作る。材料と技と時間が醸し出す、深くまろやかな本物の味をぜひ。
●二合徳利(360ml) 970円
瀾り罐(720ml) 1,700円
🕒 9時～17時 🆓 無休 📞 0737(62)2035

◎太田久助吟製 おおたきゆうすけんせい 金山寺味噌
醤油造りの元になった金山寺味噌は大豆、米、麦に瓜や茄子、生姜、しそを混ぜて作る風味豊かな逸品。ご飯のおかずや酒肴にぴったり。
●金山寺味噌(300g) カップ 690円～
🕒 9時～17時 🆓 不定休 📞 0737(62)2623 (2020年6月現在の情報です)

見る楽しむ 歳時記

コースで

- 2月中旬～3月下旬 シロウオ漁見学
- 3月 紀州湯浅のシロウオまつり(鳥之内商店街周辺)
- 4月3日 会式(施無畏寺)
- 4月中旬 ゆあさ行灯アート展(湯浅重要伝統的建造物群保存地区内)
- 7月7日 七夕まつり(弁財天・湯浅町島之内地区)
- 8月 湯浅まつり・花火大会(湯浅広港)
- 10月18日 秋祭(顯國神社・逆川神社)
- 10月頃 紀州湯浅のギョギョっとお魚まつり(湯浅湾漁業協同組合・湯浅水産物商業協同組合 周辺)



熊野古道に点在する王子の一つ

◎逆川王子跡 さかがわおうじあと

王子とは熊野三山祭神の御子神を祀る神社で、熊野詣の際の遙拝所・休憩所・宿泊所となつたところ。この逆川王子跡も江戸期までは神社として神主も置かれていたようだ。逆川の名は、この辺りの川の大半が西へ向かって流れると、近くを流れる山田川の支流が東へ向かって流れることに由来する。



サンセットビューがおすすめ

◎端崎 たたきざき

山田川河口から湯浅湾に向けて延びる半島の岬。ここから見える夕陽は、和歌山県が定めた「和歌山の朝日・夕陽100選」に選ばれている。かの明恵上人が修行したといわれる刈藻島をシルエットに暮れゆく夕景は、まさしく絶景。



熊野詣での宿泊所でもあった寺

◎深専寺 じんせんじ

深専寺は奈良時代、行基によって開基されたという。現在の本堂は寛文3年(1663)に再興されたもの。熊野街道の重要な宿駅のため、法皇や上皇の熊野行幸の際、宿泊所にあてられていた。境内には、安政元年(1854)の地震の教訓として建てられた「大地震津なみ心え之記」の石碑や、平賀源内がオリーブと間違えて名付けたといわれるホルトの老木があった。

🕒 9時～17時 🆓 無料 📞 0737(64)1414 (2020年6月現在の情報です)

ちょっと見て、聞いて

辻行燈&せいろミュージアム このオブジェを探そう!

湯浅町を通る熊野古道を中心に、昔の面影を残す湯浅重要伝統的建造物群保存地区を美術館に見立て、辻行燈やせいろを格子に取り付け展示。いろんなオブジェがあちこちにあって、見つけるたびに嬉しくなる。



彩色図柄の小皿。ユニークなものもある。



歴史を感じる自転車は、現役?



江戸時代に携帯していた物。



湯浅の風情を短歌に詠んだ野口雨情。